

第2回 学校構想検討委員会会議要旨

日時 平成30年6月27日
午前9時30分～11時11分
場所 1階まなびの広場

会議の委員出席者

- ・岐阜大学教職大学院 教授 石川 英志
- ・岐阜教育事務所 学校職員課長 代理 小出 直弘
- ・自治会連絡協議会長 翠 治彦
- ・コミュニティ学園運営協議会会長 大熊 龍夫
- ・町 PTA 連合会長 仲島 秀雄
- ・北方中学校長 浅井 孝彦
- ・北方南小学校教諭 大羽 幸恵
- ・北方町議会議員 井野 勝巳
- ・北方町議会議員 杉本 真由美

欠席の委員

なし

会議の事務局出席者

- ・教育長 名取 康夫
- ・教育課長 河合 美佐子
- ・学園構想推進室長 浅野 浩一
- ・参事兼総務課長 奥村 英人
- ・参事兼福祉健康課長 林 賢二

書記の出席者

- ・学園構想推進室 係長 佐藤 弘章

会議の主な内容は以下のとおり

1. 座長あいさつ

本日は、2回目の検討委員会ということで実質的な協議は今日からはじまるということになると思います。みなさまには忌憚ないご意見をいただいてみなさまの合意を大切にしながら進めていきたいと思ひます。

2. アンケート結果の報告について

事務局からアンケート結果について説明をする。

委員の主な意見は以下のとおり

○学園構想に対する反対意見はなかったのか。

⇒反対意見は全体の数パーセント程度でした。詳細が分からず不安だという意見は散見されたが、はっきり反対という意見はほとんどありませんでした。

○今後、学園構想の運営方法、進め方を協議する課程の中で不安な要素がまた出てくと思う。学園構想について知らせていただくと保護者の方も安心すると思う。

⇒広報・ホームページに掲載していくことはもちろんのこと、アンケート結果については A4 用紙1枚にまとめ、心配の声が多かったご意見に対しては Q&A 方式に整理したものを全ての保護者の方に配布することを考えています。

○校区割りについての意見はあったのか。

⇒なるべく今の学校区を変えないよう、北方小校区と北方西小校区を北学園、南小校区を南学園にして欲しいという意見が多数ありました。また、今の小学校区を分けるような形での校区設定はやめてほしいという意見も多くありました。

その他、中学校在学中に北方学園に移行する生徒に対しては、学校選択制といった特例措置などの配慮をお願いしたいという意見や、各学校にはそれぞれの文化があり、良いものは引き継いでいきたいので学校区を分けるのはどうなのかという意見もありました。

○教科担任制について関心が高いと感じた。

⇒岐阜地区内に桑原学園がありますが、その教職員の話では、今まで見えなかったつながりが見えるようになり、中学校で大切になる部分を小学校の段階で意識しながら指導できるようになり、自分の指導力があがったとの感想を聞いています。専門の先生に教えてもらえることは、子どもにとってのメリットもあるが教員側の指導力向上にも役立ち期待が持てるものです。

○特色ある教育の実施とはどのようなものか。

⇒英語という記載があったので、地域の特色というよりもそこにひっかかって教職員の関心が少なくなったのではないかと思います。

○保護者間の話では、お金の問題がある。制服でお金がかかるからいやという人がいる。部活動が2つに分かれると心配であるとか、今までの友達と別れてしまうなど。

マイナスのことが出ている。分からないので不安であるという意見が多いので、できる限り早く情報は提供していただきたい。

⇒今は、仕組を議論しているので見えにくいですが、8月からは、教育方針や学校構想のよさを打ち出していくので、その辺りからだんだんと理解していただけないかと思っています。

○9年間を見通して生徒指導ができることはとてもいいことであると思った。特に低学年から9年生まで指導できることはいい。特色のある教育実施について差があることについて、保護者の方が期待している。学園になってその期待に対する情報を共有しながら期待にこたえていくことが大切であると思う。

○住宅を探している方の意見で、義務教育学校に期待して不動産会社の方が北方町を勧めているということを伺っている。

○地域住民は大体この制度については理解していると判断している。以前からお願いしていたが、先生同士が勉強会をしてお互いが成長できる環境づくりをお願いしたい。今回学園になることでそれが実現できると思っている。また、いじめ問題として今までは6年間で済んだいじめが9年間いじめられるのではないかという意見もある。いじめ問題についてはどう対応していくかの考え方をしておく必要があると思う。

⇒アンケートでは、いじめのことは非常に関心が高かったです。9年間いじめられ続けるのではないかという心配する意見もありました。義務教育学校の根本は、小中学校の先生が連携して児童・生徒一人ひとりに対する理解を深めることです。中学校に進級するときに全く知らない先生ばかりではなくて自分を知っている先生がいたり、教科担任制にしても学習面のことだけではなく、一人の担任以外に大勢の教員が一つのクラスに入るので複数の視点からいじめの問題も発見しやすいということがあります。小中連携の根本は安心して子どもが学べることなので、義務教育学校になることでいじめをなくせる体制が強化できると思います。そこを丁寧に説明していきたいと思っています。

○地域の中でも話し合いが持たれるということは大事だと思うので、学園構想が始まる前から小中の先生が連携してそれが見えてればもっと発信しやすくなると思う。

3. 北方学園構想について

学校区の設定について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

○校区割りは非常に大きな問題であると思っていた。北方小学校と北方西小学校が一緒になって北学園は1000名、南学園では500名程度と説明があったが、1000名にもなると学校運営が大変になるのではないか。そのあたりのバランスの問題を考えて学校区を考えなければならぬのではないか。保護者は学校区を変えないでという意見が多いが、先生への負担が増えないかといった心配もある。この件についても考えているのか。

⇒1000名という数字は小学校と中学校併せての数字であり、義務教育学校を、小学校の単位で考えると600～700名程度、中学校でいうと350名程度の学校になると思います。各学年で考えると3クラスが基本となり少人数で4クラスとなり、北学園全体では27クラス程度となる見込みです。1000名規模の小学校ならばマンモス校になりますが、県が示している学校の適正規模の基準では義務教育学校の場合は、小中併せて18～27学級が適正規模として示されています。また、南学園も18クラス程度と見込んでおり、適正規模の中に含まれています。

教員の負担に関しては、教職員定数として町全体では小学校2校分と中学校2校分の教員が配分されます。小学校、中学校それぞれの算定基準に基づいて配置されますので現状よりも教員増が見込まれます。また指導体制としては、校長は1人ですが副校長や教頭が複数配置されますので充実した体制としてやっていけると思います。

○生徒数が1000名程度になると先生は何名程度になるのか。

⇒正規の教員だけで小中あわせまして50～60名になると思われませんが、非常勤講師等がおりますので実際は70～80名程度になると思われま

○今、北方小学校で何人、北方西小学校で何人、北学園になったら何人といった資料をいただくと比較しやすい。

⇒学級数が決まりましたら算定できますので、今後資料提供します。

○校区の選定は、北方西小学校全体を北学園にするのか、あるいは一部を南学園にするのか。そこで地域が生徒も親も悩むところである。基本的に北方西小学校の生徒は全員北学園へということになると地域がもめることがないと思う。ただ心配しているのは、片方の学校は1000人規模、もう片方の学校は500人規模となった時に、ど

るのかということが問題になろうかと思う。

○近い方に行きたいという方がみえたらいけるようにしてはどうか。

○生徒数が決まらないとクラスの数も先生の数も決まらないので半年くらい前に決めてしまっただけで教員の数を決めてしまわないといけないと思う。

⇒地理的に言えば、例えば北方西小学校でも明治製菓の南側辺りは南学園の方が近いのではないかと思います。学校選択制を検討する中で地域別にするのか年度で区切るのかそういったことも含めて皆さんが納得いただけるような方法にしないといけないと思っております。

○今、1.5キロメートルを超えるとバス通学になっているがリサイクルセンターのあたりの方は1.5キロメートルを超えていないのか。

⇒超えないです。

○なるべくなら南北で人数がそろってほしいとは思いますが、義務教育学校に限らず小中学校は地域に根ざした学校なので近くの学校であることが大切である。また、地元の自治会とのかかわりが大切であったり、今の学校の良い伝統を北方学園に引き継ぐことも大切である。物理的にも南学園にたくさんの校舎を建てるのは難しいこともあるので、自然に考えていくと基本は北方小学校と北方西小学校が一緒になって北学園、南小学校が南学園といった方が落ち着くのではないかと思います。

○学校の選択制というのは具体的にどのような形で選択できるのか。

⇒具体的なことは今後ということになりますが、例えば、北方学園が開校したときに、中学校2年生まで北方中学校に通っていた子が南学園に移ることになるので、環境が変わるから心配な方は北学園に残ったり、家から近いから南学園に行きますというように選択できる方法とか、対象地区を設定してその地域生徒は学校が選択できるのか、やり方はいろいろあると思います。

○今後の検討課題ということでもいいのか。

⇒本日は、学校選択制までは決められないので今後の検討事項ということでご認識いただきたい。

○北小と西小が北学園、南小が南学園とする案はメリットが多いと思う。子どもたちは転校しなくても良いし、子どもたちを見守っていただける地域の方がそのままということとは非常に安心につながるのではないかと思います。南学園については9年間で南学園

の文化を高めていける目標を持った指導が必要となってくると思う。

○人数のことは一見大事に見えるが、そのことに引っ張られて機械的に学校区を割ってしまうのは良くないと思う。それよりも大事にしたいのは今まで積み上げてきたものであったりとかこれから積み上げていくものをどうしていくのかということで、今までの校区は大事にしていきたいと思う。

ただし、中学校に入学した子どもが分かれてしまうということには配慮が必要かと思う。部活動のこともあるので。学校選択制度という中で部活動ということも選択肢に入れるという議論の余地はあると思う。移行期の措置は必要だが、移行しきった後は地域の学校として安定していくのではないかと考えている。

※以上の協議の結果、学校区については、北方小学校区及び北方西小学校区を北学園校区、北方南小学校区を南学園校区とする案で全委員が了承。特に反対意見はなく、同案を検討委員会案として決定することとなった。

次に施設配置(案)について説明する。主な意見等は以下のとおり。

○在学中の子どもたちへの影響を考えると、仮設校舎を使わない工事計画はとても良い方法であると思う。

○南学園のプールは1つということか。小学校と中学校併せても1つでいいということか。
⇒基準ということでいいますと問題はないと考えております。詳細は今後詰めてまいりますので必ずしもこの案で行くということではありません。

○北方小学校の校舎はどうするのか。改修で済ませてしまうのか。
⇒北方小学校の校舎は、管理棟と北舎は全面的な改修、先生がおられる管理棟は建て替える方向で考えています。東舎は大規模改修または長寿命化工事を予定しており建て替える予定はしておりません。

○この校舎は大丈夫なのか。雨漏りとかはしていないのか。
⇒雨漏り修繕といった部分的な修繕ではなく今後長期間にわたって使用できるような改修を行う予定です。

○この建物は建ってから何年経っているのか。
⇒棟により違いますが、東舎は昭和44年と昭和47年築です。建て替えも検討しましたが有利な補助が受けられないこともあり30年間程度持つように根本的に改修を行い

ます。国の方も改修を優先的に補助金をつけているということもあります。

○確認ですが、門は西と南にしかないということか。

⇒今後検討してまいります。

○南学園ですが、今は多目的室を学年集会等で使用しているが、同じ大きさの部屋を別の場所に作るなど考えているのか。

⇒基本的に柔剣道場は使用頻度が低いので兼用は可能と考えております。また、中庭に屋根をつけたり、玄関が広いのでそこを活用する方法などを考えております。

4. その他

次回の日程と内容についての事務連絡。

次回は、学園の教育方針や施設の詳細などを協議したい。開催日は8月20日過ぎを予定している。